祝
町制施行30周年

PR 大根占（おおねじめ） 町政の広場

昭和38年10月18日発行

鹿児島県 大根占町
発行人 町長 坂元左武郎
編集 総務課 文書広報係
印刷 大根占印刷所
No. 116
＝町制施行30周年記念特集＝

さらに進展の転機に

町長 坂元左武郎

昭和八年八月一日、大根占村が大根占町となってから、ちょうど満三十年になります

昭和八年六月十九日議決の議案に、

「村ヲ町ト為スノ件

大根占村ヲ大根占町ト為シ昭和八年八月一日ヨリ施行スルモノトス

説明

民心ヲ更新シ濺溌生気アル活動ノ下ニ村治ノ発展ヲ期シ、一面商取引上ノ信用観念ヲ濃厚ナラシムル為、村ヲ町トナサントス。」

とあります。

三十年の年月は、人生に置きかえても、壮年期、人生の半ばに達します。この間、いろ〳〵の移りかわりがあったわけでありますが、戦前、戦後を通じ、歴代の町長、町議会はじめ、先輩諸士の御尽力町民一致しての努力の結果今日隆々発展の途上にありますことは、誠に喜びにたえません。

町制初期の十年間は、旧市制町村制のもと、町としては大根占港の修築に財政の多くを割き、その後の十年間は戦時体制から終戦、物資不足になやみ、昭和二十七、八年ごろから漸く建設、開発事業に力を入れることができ、今日港湾、道路、学校建築、海岸堤防など一応の整備をみるに到りました。従って、産業経済、教育施設、社会福祉、消防施設の充実など本格的な建設事業は、むしろ、今後の課題であるといえましょう。

現代の一年は、昔日の五年十年に匹敵するような目まぐるしい発展、成長をみせています。わたくしたちは、時代の歩みにおくれないようこの記念すべき三十周年の年を転機として、前記の町制施行当時のように、心気新たに濺溌として、町勢伸展を期して、さらに努力することを誓い合いたいと存じます。とくに、農業構造改善事業は、これから実施の段階となりますが、全力を尽してこの遂行を計りたいと思います。みなさまの御尽力を切にお願いいたします。

町制三十周年を迎えて

町議会議長 本釜 清

秋冷の今日このごろ、大根占町の市街地を眺めますと、私は心から、この美しい、大根占町に住み、かつ、働くことの幸せを思わずにはいられません。

昭和八年八月一日、町制を施行して以来、本年八月一日をもって、三十周年を迎えたわけですが、今日の隆盛と躍進を見るに至ったことを回顧しますと、今昔の感に堪えないものがあります。

もとより本町は、絶好の立地条件を占めると云うこともありましょうが、各種官公庁の集中と相まって、名実ともに四ヶ町の行政、教育、文化の中心地としての、実績を備えるに至ったのでありまして、この間、歴代の町長さん始め関係各位、町民の方々のたゆまないご努力に対し、かねてから深く敬意を表しているところであります。

然しながら、今日の大根占町にならしめたこの陰には、先覚者たちの血のにじむようなご努力のあった事を銘記いたしたいと思います。

なお、この間、只ひたすらに、町勢の進展のために、御尽力されました故人の偉業をしのび、その御冥福を心からお祈り申し上げる次第であります。私どもは、今や、地方自治制の次の十年の歴史の出発点に立っているのでありまして、解決する問題はなお少なしとしないのであります。

町制三十周年を迎えるにあたり、この機にさらに地方自治の理念を新たにし、町民福祉増大のために、議会活動の上に生かし、地方自治行政の確立に貢献することをお誓いし町民各位の御多幸をお祈りし大根占町が、近代都市として誇り得る日の近いことを期待し、所懐の一端を申し述べて喜びのご挨拶といたします

とじておくと便利です

町政10年のあゆみ

昭和二十八年十月二、三両日、町制二十周年の記念行事が盛大に挙行されましたが、以来、才月の流れるのは早いもので、今日三十周年の式典の日を迎えるに到りました。

当時は、二十七年四月、講和条約の締結により、連合国軍の占領体制下から解放され祖国自主独立の喜びの中に、我が町も漸やく、諸建設事業が本格化したころであります。

昭和二十五年米国の見返資金によって開始された大隅海岸道路の改良工事は二十九年度には神川から鳥浜、城ケ崎入口まで達し、二十六年ごろから始められた町道幹線半下石、久持、厚ケ瀬線等の改修も実施されつゝありました。以下、年ごとにこの十年間の歩みをたどってみましょう。

二十九年

◎町道各線の改良工事、半ケ石線、久持線、厚ケ瀬線等の改良を八六〇万円で単独事業で実施

◎塩屋、山ノ口、堂之元川護岸災害復旧工事、延長計二七七メートル、工事費一三六〇万円を町営施工

◎県営工事では

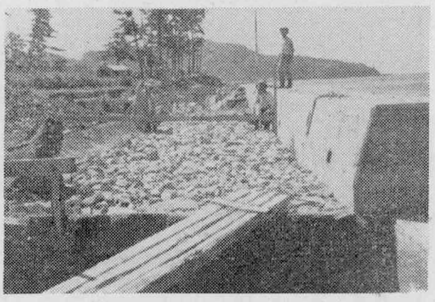
鹿屋―佐多線改良、一七九三メートル、半下石河川護岸二八五メートル、厚ケ瀬谷、崩迫谷の砂防工事、山ノ口海岸保安林防潮堤九八メートル等が実施され、また港湾修築事業は九〇〇万円で防波堤九七メートルのかさ上げが行なわれ、大根占港修築事業はこれで一応終了しています。

※高校県立移管の成功

六月二十六日県教委で正式決定、十一月二十七日、町を挙げての祝賀行事が行なわれました。

◎奥地林道岩元線着工

五カ年継続五〇〇〇メートルの計画で、この年、一三七六メートル六一六万円を県の委託工事として実施、九月二十八日現地で起工式挙行



◎二十七年度から県が提唱した経済自立化運動の優良部落として鳥浜部落が県の表彰を受けました。

◎この年は、長雨がつづき大部の農作物は不作でしたが、ラミーは豊作、葉たばこは、できが悪く、五一三人、一一九、五ヘクタールで、売上げは六三七七万円でした。

◎池田地区の畑地かんがい事業は、二八年から計画され、この年、部落ごとに調査、協議会が開かれましたが、この事業は、ついに実現することができませんでした。

◎城元、鳥浜台地約三九〇ヘクタールの交換分合と、支幹線計二〇、〇〇〇メートルの農道整備が計画され、八月調査開始、三〇年一月着工、一六〇ヘクタールの交換分合と幹線農道の整備が行なわれました。

◎神之浜商工会は発展的に解散して大根占町商工会が設立され、初代会長に大山勝実氏が就任

◎台風五号

八月一七、十八日の台風五号は猛威をふるい、県下の被害三〇億円と云われ、本町でも家屋全半壊、浸水一五〇戸神川堤防半壊、山ノ口防潮堤全壊、木炭一二〇〇俵流失、町の被害総額は六〇〇〇万円に達しました。

宮里元町長など三十三人

晴れの式典で表彰

（敬称略）

※自治功労者（表彰）

宮里　軍吉　議員二一年　助役四年
町長五年六カ月

故桑原盛次郎　議員一五年以上（六期）
本釜　清　〃（七期）
諏訪原森助　〃（六期）
馬込　一三　〃（五期）
長岡　正一　〃（五期）
川辺　盛康　〃（五期）
大山　治吉　〃（五期）
毛下　清武　〃（四期）
福園　源助　職員一年、収入役九年、選管委員五年
山下　森三　農業委員一五年以上（一七年）
有川　久三　選管委員一五年以上（一七年）
落司　彦熊　民生委員一五年以上
前原　初男　消防団員三〇年以上
岩崎　重能　〃
上杉　工　〃
矢野　清　職員一六年半

※自治功労者

税所　俊夫　職員二三年

※社会福祉功労者

村山　仲助　民生委員、司法保護司等、恵まれない人々の更生に努力された

※教育功労者

赤石　辰夫　教師として本町在職二三年半
四本トモエ　〃　二三年
勝野　正子　〃　二一年

※感謝状贈呈

町制施行当時の議員
坂元　盛香　川越　再治
前田　直吉　鳥越　資則
前迫　平吉　壱崎　市蔵
〃職員　福留　平吉
元町長
部落長一五年以上
吉元宗太郎
町有林監視人二〇年以上
厚ケ瀬平蔵
交通関係
大山嘉兵衛

※納税優良部落（表彰）

一〇年以上継続完納
安水部落

◎町村合併問題

二八年一〇月から三回の協議会が開かれ、県は一〇月、三カ町村の合併を勧告しました。

三十年

一月六日、大橋の製材所から出火、大火災となりました

◎七月、役場の池田支所が開設され、職員二名が配置されましたが、その後廃止され、現在は農協支所で一部の事務を行なっています。

◎八月、漁協で神川と松崎沖に築磯事業実施

◎八月二十九日三カ町村合併が、町民から多額の義損金品が寄せられ二七日その伝達が行なわれました。

◎四月には議員、町長の改選が行なわれ、議員定数はこのときから六名減の二〇名とされ、町長に宮里軍吉氏が再選の知事勧告に賛成することを議決されましたが、これは実現しませんでした。

◎岩元林道は二年目を迎え、二〇二二メートルを九四〇万円で施工、県単笹原林道も九九万円で着工されました。

◎大根占港は起工以来二一年この年運輸省の検査が行なわれました。戦後二三年工事再開以来の事業費五九九〇万円うち、町の負担は一八三六万円、戦前戦後を通じ一億円以上に達するものと思われます

◎台風二二号

九月二九日の台風二二号は最大風速五三メートル、雨量三五〇ミリで、住家の全半壊四〇〇戸、浸水三〇〇戸、道路、堤防、農作物の被害も大きく、被害額は二億三五〇〇万円余、災害救助法が発動され、町民運動会も中止された

◎十月、中央分団員の奉仕で大根占小校庭に四七トン容量の消防水槽完成

◎葉たばこは豊作で、五一三人、一一六、五ヘクタールで八六七三万円の売上代金

三十一年

◎町消防団本釜団長ら退任後任団長に河野博氏任命

◎経済自立化運動優良部落として上之宇都、県から表彰

◎この年、防災営農が提唱され、水稲の早期栽倍を奨励

◎十月、教育委員が任命制となり、委員長に新原兵助氏就任

◎十月末で、宮里町長病気のため退任され、十一月遊喜半次郎氏町長に当選

三十二年

一月二四日、神川橋完工、延長九八米、工事費二三八〇万円、渡り初め式行なわる。

◎三月、助役に坂元左武郎氏選任

◎県道改良工事、神川中心部三〇〇メートル三五〇万円、半下石の河川護岸工事、二六三万円、山ノ口防潮堤四〇メートル八五万円、海岸堤五七メートル二二七万円、いずれも県営工事で完工

◎三月二五日、町村合併につき知事から再度勧告

◎三月二六日、現在の高校講堂起工式、一二〇坪、三六六万円

◎十月、中央分団に新型消防車、一〇五馬力　A―二級

神川分団に三四馬力の動力ポンプ購入

◎十一月、力士大根占後援会発足

◎葉たばこ豊作、四九八人、一二〇、八ヘクタールで九〇八一万円、九千万円突破祝賀会開催される。

三十三年

◎二月二十三日、初めての町内一周駅伝競争開催、池田校区青年団優勝

◎四月、失業対策事業が開始され、七日鍬入式、半下石線改良工事に就労

◎戸籍法等の改正で戸籍改製の事務開始される。

◎六月から仔豚のせり市場開設され、三日第一回の市場で五二頭出場

◎紅茶の増殖すすみ、塩屋、鳥浜に二、六ヘクタール新植

◎七月に新農山漁村建設特別助成地域の指定を受け

三三年度事業は

神川中原共同開こん四ヘクタール

神川河内林道五六九メートル　五六万円

宿利原共同集荷所二〇坪

歴代三役

※町村長

歴代	氏名	在職期間
戸長	浜崎　速	明17.1—22.3
初代村長	妹尾平吉	22.6—24.6
2	宮里壮次郎	24.8—30.1
3	山元　繁	30.11—31.6
4	宮里壮次郎	31.8—45.3
5	坂元 盛祐	45.4—昭8.7
初代町長	同上	昭8.8(1ヶ月)
（当時病気中のため、町長代理助役宮里軍吉　職務代行）		
2	浜崎　節	9.2—18.10
3	山元徳夫	18.10—21.2
4	浜崎隼人	21.3-22.3
5	（公選）同上	22.4—26.3
6	宮里軍吉	26.4—30.4
7	同　上	30.5—31.10
8	遊喜半次郎	31.11—35.11
9	坂元左武郎	35.11—現在

※助役

初代	宮里壮次郎	明22.6—24.8
2	山元徳之烝	24—27
3	川辺　平	28—30.1
4	湯田　周介	30—35
5	坂元　彦熊	35—39
6	坂元　盛祐	30—45.3
7	山元徳之助	大元—14
8	湯田　壮熊	大14—昭4
9	宮里　軍吉	昭4—8
10	田中　猶矢	9—16
11	山元　徳夫	17—18.9
12	吉永　勝剛	18—21
13	原口　吉蔵	21.3—22.3
14	同　上	22.3—26.4
15	坂元左武郎	26.4—30.4
16	同　上	30.5—31.10
17	同　上	32.3—35.10
18	矢野　清	36.2—現在

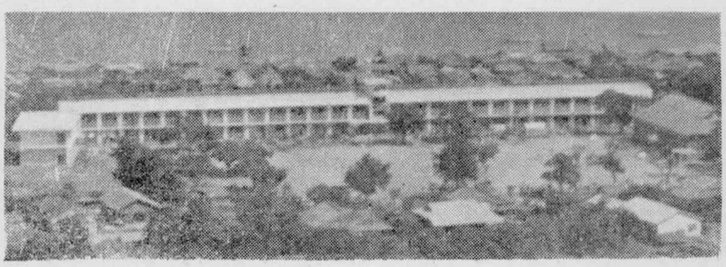
※収入役

初代	湯田　周介	明22—28
2	右田　耕造	29—32
3	吉永　政信	32—大12
4	遊喜喜右ェ門	大12—15
5	牛飼伝太郎	15—昭5
6	岩松　周市	5—9
7	宮下仲兵衛	9—10
8	吉永　勝剛	10—18
9	矢野　清	18—20
10	福園　源助	21—22
11	同　上	22—26
12	同　上	26—30
13	矢野　清	30—34
14	同　上	34—36.2
15	山下　春二	36.2—現在

町制施行後の議会議員

◎印　議長　○印　副議長

昭和八年改選
山元徳之助　湯田　壮熊
坂元　盛香　川越　再治
垣内吉次郎　貴島　正
笹原伝計佐　川辺　盛繁
田貫仲太郎　大山嘉兵衛
前田　直吉　遊喜　資世
鳥越資則　上之園利右ェ門
前迫　平吉　壱崎　市蔵
園川　兵介　税所　佳千彦
仮屋熊計佐　番園浜右ェ門
平原喜太郎　落河　盛吉
黒瀬吉右ェ門厚ヶ瀬覚左ェ門
昭和十二年改選
番園浜右ェ門　黒瀬　幸重
壱崎　市蔵　仮屋熊計佐
垣内吉次郎　福岡助次郎
大山　勝実　長浜　栄二
坂元　盛香　本釜　清
落河　盛吉　湯田　壮熊
大山　善吉　鳥越　資則
桑原盛次郎　釘田　英吉
前田　直吉　前迫　平吉
今熊与太郎　平原喜太郎
厚ヶ瀬覚左ェ門黒瀬吉右ェ門
馬込　一三　園川　兵介
昭和十七年改選
磯脇四郎次　福岡助次郎
宮里　軍吉　前迫　平吉
湯田　壮熊　本釜　清
半ヶ石太吉　岩松　周市
馬込　一三　桑原盛次郎
税所　啓十　番園浜右ェ門
南　重男　脇田　達弥
落河　盛吉　厚ヶ瀬　平蔵
諏訪原森助　笑喜　英蔵
山元徳之助　平原喜太郎
大山　勝実　鳥越資則
園川　兵助　浜崎　隼人
昭和十八年
岩松周市　死亡
原口鶴吉　繰上補充
昭和二十二年改選
諏訪原森助　川越　再治
桑原盛次郎　貴島　三也
永吉　一二　神川　静夫
中松庄太郎　南　重男
○本釜　清◎宮里　軍吉
落司　吉彦　大山　治吉
松元　市次　馬込　一三
川辺　盛康　山元　千春
平原喜太郎　黒瀬　一志
宮下　清吉　湯田　トミ
毛下　清武　岩下　栄造
小石田直治　牧原　清治
昭和二十三年
吉元次郎右ェ門　長岡正一
吉元次郎右衛門　死亡
昭和二十四年
黒瀬一志　死亡
昭和二十六年改選
○諏訪原森助　皆倉　松二
岩下　栄造　桑原盛次郎
松元　市次　川越　再治
馬込　一三　黒瀬　健郎
禰占　十熊　新原　虎吉
中松庄太郎　大山　治吉
福留　平吉　毛下　清武
山元　千春　垣内　秀雄
前園　栄　牧原　清治
山之内畩吉◎　本釜　清
落司　吉彦　神川　静夫
川辺　盛康　遊喜　資能
山元　繁徳　長岡　正一
昭和三十年改選
宮園　直矢　押領司国雄
桑原盛次郎　禰占　十熊
川辺　盛康　牧原　清治
○諏訪原森助　毛下　清武
瀬戸　藤吉◎　本釜　清
前園　栄　原田　速雄
遊喜　資能　半ヶ石三夫
大山　治吉　平原喜太郎
長岡　正一　黒瀬　健郎
落司　吉彦　壱崎　実志
昭和三十一年
牧原清治　辞任　補欠選挙により　宿利原徳二　当選
昭和三十四年改選
永田　清彦　黒瀬　健郎
川崎　忠男　大山　治吉
瀬戸　藤吉　落河　昭
川辺　盛康　垣内　秀雄
原田　速雄　毛下　清武
◎本釜　清　長岡　正一
半ヶ石三夫　岩下　栄造
前迫　文哉　宮園　直矢
坂口不二郎　中村三勇士
桑原盛次郎○諏訪原森助
昭和三十六年
桑原盛次郎　死亡
昭和三十八年改選
瀬戸　藤吉　赤石　三矢
福岡　国夫　皆倉　松二
宮園　直矢　岩下　栄造
○川辺　盛康　大山　治吉
落河　昭　前園　栄
川越　二郎　前迫　文哉
◎本釜　清　押領司国雄
長岡　正一　毛下　清徳
桑原　亨　本釜　利夫
中村三勇士　牧原　清治



三九万円
大尾共同集荷所二〇坪
三九万円を実施
◎県道改良工事は市街地に入り、七四〇メートル、二〇七〇万円で役場下までの家屋移転始まる
三十四年
◎県道改良工事九六〇メートル、一八〇〇万円で大橋まで舗装工事も小学校前まで行なわる。
◎桜原の農道一四八〇メートル二六〇万円、労力延四〇〇〇人を要して完成
◎二九年からの笹原県単林道完成、一九四〇メートル、地元の労力奉仕延六〇〇〇人
◎大根占港の修築事業再開され、防波堤二〇メートルを延長、工事費四五〇万円
◎四月議員の改選行なわれ、議長本釜清、副議長に諏訪原森助氏再任される。
◎八月七日台風六号、高潮の害大きく、長谷の県道七〇メートルにわたって決壊、山ノ口海岸、鳥浜海岸では住家まで潮が入った。
◎町消防団、郡操法大会で自動車ポンプで優勝、県大会でも二位入賞
◎九月十六日、台風十四号、六号に続き、さらに海岸地帯の被害大きく住家の流失全壊一〇戸浸水九七戸で、消防団員小牧正男さん救助作業中重傷を負う
◎一〇月二八日、大根占小鉄筋校舎の起工式、三四年は二一七坪を九六〇万円で施工、これは三七年度までで完成、延八六五坪、四四〇〇万円を要した。
◎十一月、国民年金法の施行で、福祉年金の受付事務始まる
◎公営住宅二〇戸を四九〇万円で建設
三十五年
◎営林署の新庁舎落成、一六〇坪、工事費一〇〇〇万円
◎鳥浜海岸の護岸工事、一二八メートル、一〇〇〇万円で着工、山ノ口海岸も一五六メートル、六二八万円で施工
◎紅茶工場建設など新農村建設事業九件、五八六万円で完成
◎遊喜町長任期満了、坂元町長無投票当選
◎山ノ口海岸堤一七一四万円
鳥井戸海岸一六〇〇万円で着工
三十六年
◎法務局新庁舎落成
◎池田分団に消防積込車、中央、神川分団に新型動力ポンプを購入
◎中学校の生徒急増で各校の増築七二万円で施工
◎家畜市場の改築施工
◎町消防団、日本消防協会から表彰される。
◎七月、宿利原分団に、ポンプ積み込車購入
◎国民健康保険事業始まる。
三十七年
◎慰霊塔完成
三月二八日、除幕落成式挙行
◎町消防団、郡操法大会で自動車ポンプ、動力ポンプともに優勝
◎大根占小学校、池田小学校に給食実施、施設費四五〇万円
三十八年
◎三月十三日交通安全町宣言
◎大小、改築工事完工
◎大根占水田航空防除実施
◎厚ヶ瀬橋、永久橋に架替
◎農業構造改善事業特別助成地区に指定される。

＝町のあらまし＝

人口 14481人　世帯数 3277（35年国調）
38年9月現在　大根占校区 6.471人　神川 3.410人
住民登録では　池田 2.401人　宿利原 1.922人
合計 14.204人（男 9.777人　女 7.427人）
面積85.25K㎡　田畑19.84K㎡　宅地1.41K㎡　その他63.95K㎡
町道延長73.424m　県道29.474m　国道10.054m
学校、小、中各4校　児童数 小、2.363人中、1.307人

町制30周年の盛典に寄せて

元町長　宮里軍吉

神川小学校の肝属郡教育会の席上、村の教育方針を述べつゝ、坂元村長は、突然として病気になられ、症状が長びくので村長代理助役として私が村政を行うこととなりました。実に昭和七年のことであります。私は、当時四隣の状況、諸般の事情を勘案し、かつ、民心一新のためにもこの際町制を施行することが最も適切であると考え、知事の認可を得て、昭和八年八月一日町制を施行し、同時に布告を発して、町民の奮起と協力を要請しました。その布告文は私が心血を注いで起草したものであり、たとえ、文はまずくとも、その精神は必ずや町民の納得を得るに足るものと自負いたしたものでありました。

当日は、午前に郷社河上神社に奉告祭を行い、祝詞を奏上し、午後は城ヶ崎二本松に於いて大根占港修築事業起工式が挙行され、純白の布に包んだ「礎石」を私が沈下いたしました。

年とともに新たなるを求め十年ごとに記念式が行なわれますが、その第一回は、時恰も日支事変に次ぐ大東亜戦争で一切の行事は中止されましたが、そのとき私は町会議員に参与を兼ねておりました。

第二回の記念式は、港湾の一応の竣成、ルース台風後の海岸堤防の見とおしもつき、その喜びの中に、町長の私によって行なわれましたが、その翌二十九年には念願の高校県立移管を実現　その祝賀行事を行ないましたが、この二事は、私の終生忘れ得ぬ感激であります。

今次は第三回の記念式典で町制施行後、方に三十年、星移り、物変り、世故変移し、まことに驚くべき変革であります。

往古より「長生して恥多し」と申しますが、私は長生きして、今回の記念式典を迎えましたことに感銘を深くしております。

私は四十年の間、町政に参画いたし、いま、一歩〳〵踏みしめてきた既往の足跡を追想し誠に感慨無量なるものがあります。

この長い間、私は如何なる抱負をいだき、経綸を行い、幾何の成果をもたらしたのか徒らに夢多くして道遠く、ひたすらに悔ゆるばかりであります。而して、その終りには病難に苦しむ等、決して芳しきものではなかったのであります。私はこの町に生まれ、この町に育ち、この町の土と化しますが、今や我が町は、坂元町長を中心に、全ての職域の方々が、町民と共にの意欲旺盛に、刻苦勉励され、町民またその意を受けて家業に精励し、勤倹貯蓄を旨とし漸次庁務に奨順するの風潮が醸成されつゝありますことは誠に慶賀に堪えません。斯くして進むならば、我が町は、郡県に於ける雄町として、貫録と面目を保有するに到ることまた疑いを容れざる処であります。

町民のみなさん、親和してもとらず、協同して撓まず、更に力を住みよき郷土、豊かな村づくりに精進されますことは、心底からの願いでありそして私はまた、余生を進みゆく町勢を第一の楽しみとして送るでありましょう。

みなさん、私は本年七十六才、耳聾し、歯落ちて体力頓に衰えて何の役にも立ちません。従って、この次の記念式典など思いもよらず、茲に貴重なる町報の一頁を分借して志を陳べ、多年私に協力し、御支援下さったみなさんに深厚なる謝意を表する次第であります。

私の願いは只一つ、それは隆々として進みゆく町政であり、町民の一層の幸福であります。

旺んなれ大根占町勢
大らかなれ町民の志向

※本稿は、病床にあられる宮里元町長が、式典に参列できないことを非常に残念とされ、とくに祝辞にかえて寄せられたもので、原文のまゝ掲載し、当用漢字によっておりません。

なお、写真は、町長在職当時、昭和三十年に撮影のものです。

最近10年間の決算額調

(単位千円)

歳入

年度 / 款	昭和28年 決算額	%	昭和29年 決算額	%	昭和30年 決算額	%	昭和31年 決算額	%	昭和32年 決算額	%	昭和33年 決算額	%	昭和34年 決算額	%	昭和35年 決算額	%	昭和36年 決算額	%	昭和37年 決算額	%
町税	1,2092	18.0	15,090	21.7	14.862	29.7	14.513	36,5	17.048	31,5	18,247	24.0	20,339	23.6	21,920	25 3	21,221	20.5	23,414	19.4
地方交付税	14,721	21.7	10,885	15.7	12.452	24,9	13.636	34,3	16,753	31,0	19,344	25.4	24,946	28.7	28,765	33.2	39,366	38.2	6,381	38.5
財産収入	8,498	12.5	16,567	23.8	6.752	13,5	5,227	13,1	9.497	7,6	7,069	9.3	5,531	6.4	9,083	10 5	9,223	9.0	8,323	6.9
分担金負担金	13	0	24	0	57	0,1	188	0,5	190	0,3	221	0.3	144	0.2	1.279	1.5	296	0.3	748	0.6
夫役及現品			0	0	0	0	0	0	0											
使用料手数料	822	1.2	580	0.8	578	1,1	1,282	3,2	1.363	2,5	1,417	1.9	1,558	1.8	2,011	2.3	2,531	2.4	2,917	2.4
国庫支出金	23,239	34.3	11,191	16.1	3.116	6,2	2,804	7,0	3.174	5,9	14,989	19.7	16,274	18.6	7,498	8.6	12,235	11.9	10,992	9.1
県支出金	1,185	1.7	7,336	10,5	2,601	5,2	1.135	2,8	1.368	2,5	2,264	3.0	3,245	3.8	2,205	2.5	2,733	2.6	4,613	3.8
寄附金	491	0.7	1,009	1,5	986	2,0	547	1,4	2.016	3,7	519	0.7	744	0.9	706	0.8	685	0.7		
繰越金	36	0	84	0.1	15	0	34	0,1	280	0,5	3,218	4.2	2,029	2.7	2,656	3.1	641	0.6	4,599	3.8
雑収入	886	1.3	1,737	2.5	5.561	11,1	430	1,1	919	1,7	5,272	6.9	1,270	1.5	1,677	1.9	1,515	1.5	5,768	4.8
町債	5,800	8.6	5,100	7.3	3.100	6,2	0		1.500	2,8	3,500	4.6	10,200	11.8	8,900	10.3	12,600	12.3	12,900	10.7
合計	67,783	100.0	69,603	100	50.080	100,0	39.796	100,0	54.108	100,0	76,060	100.0	86,280	100	86,700	100.0	103,046	100.0	120,655	100.0

歳出

年度 / 款	昭和28年 決算額	%	昭和29年 決算額	%	昭和30年 決算額	%	昭和31年 決算額	%	昭和32年 決算額	%	昭和33年 決算額	%	昭和34年 決算額	%	昭和35年 決算額	%	昭和36年 決算額	%	昭和37年 決算額	%
議会費	1,572	2.3	1,819	2.6	1,693	3.4	1,318	3.3	1,497	2.9	1,544	2.1	1,939	2.3	2,575	3.0	3,008	3.1	3,904	3.4
町役場費	11,744	17.3	12,123	17.4	11,001	22.0	10,431	26.4	12,123	23.8	12,429	16.8	14,884	17.8	19,277	22.4	19,597	20.0	24,431	21.5
消防費	1'477	2.2	1,017	1.5	839	1.7	1,564	4.0	3,829	7.5	1,663	2.2	2,489	3.0	2,745	3.2	3,046	3.1	3,069	2 7
土木費	27,622	40,8	18,408	26.4	5,779	11.5	5,280	13.4	7,339	14.4	23,088	31.2	13,238	15.8	9,778	11.4	7,819	8.0	11,024	9.7
教育費	11,780	17.4	11,083	15.9	6,990	14.0	7,500	19.0	11,800	23.2	8,508	11.5	18,895	22.6	18,424	21.4	34,087	34.6	33,024	29.1
社会労働費	3,176	4.7	598	0.9	3,937	7.9	679	1.7	753	1,5	6,293	8.5	12,654	15.1	8,174	9.5	8,177	8.3	9,114	8.0
保健衛生費	375	0.6	423	0.6	412	0.8	423	1.1	307	0.6	436	0.6	623	0.7	900	1.0	1,481	1.5	2,208	1.9
産業経済費	5,532	8.2	13,424	19.3	6,169	12.3	3,648	9.2	4.206	8,3	6,428	8.7	7,179	8.6	9,603	11.2	6,620	6.7	7,833	7.0
財産費	1,126	1.7	6,679	9.6	3,054	6.1	2,860	7.2	3,297	6.5	7,485	10.1	4,987	6.0	6,511	7.6	3,260	3.3	4,581	4.0
統計調査費	88	0.1	32	0.1	89	0.2	24	0.1	42	0.1	122	0.2	199	0.2	391	0.4	34	0	34	0
選挙費	362	0 5	231	0.3	293	0.6	405	1.0	80	0.2	327	0.4	610	0.7	584	0.7	141	0.1	1,083	1.0
公債費	1,680	2.5	2,151	3.1	3,047	6.1	3,727	9.4	3,813	7.5	4,596	6.2	4,927	6.0	5,513	6.4	8,194	8.3	6,765	6.0
諸支出金	1,165	1.7	1.600	2.3	6,743	13.4	1,656	4.2	1,804	3.5	1,112	1.5	1,000	1.2	1,584	1.8	2,983	3.0	6,449	5.7
予備費																				
合計	67,699	100.0	69.588	100	50.046	100.0	39,515	100.0	50,890	100.0	74,031	100.0	83,624	100.0	86,059	100.0	98,447	100.0	113,519	100.0
28年を100として	100		103		74		58		75		109		124		127		145		168	